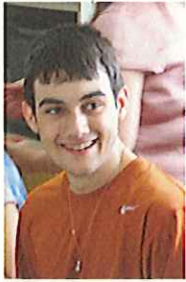


ひと ひと

女と男の情報紙

笑がお



アラブの女性

アバヤという黒いアラブの服を身にまとい、世界一大きいというドバイのショッピングモールで女性たちに出会った。購入したばかりのブランドの大きな紙バックを持って、笑いながら女性たちが歩いていく。足首を見せてはいけないというイスラムの教えを守り大理石の床を黒いアバヤのすそを引きずっていく。近づくると真っ黒に見えたそのアバヤには丁寧な刺繍が同色の黒でなされていた。彼女らは何枚ものアバヤを持ち、その引きずっている裾の汚れなどは全然気にしないようだった。彼女らはとても幸せそうにみえた。それと反対に、カラフルな洋服を身に着けているが、そのショッピングモールで働いている売り子の顔には笑顔はない。らくだの操り人形を動かしている売り子は、愉快的な踊りをラクダにさせているのに顔は固まったまま、感情を押し殺したような能面のような表情だった。

人口の8割以上が移民というアラブ首長国連邦ではアラビア人は特権階級のように思われた。しかし、石油による国家の繁栄を築いたといわれる国王の家系図を博物館で見たとき、驚いてしまった。写真入りの、その家系図には女性がひとりもない。国王には十人以上の息子たちがいて、孫はそれ以上の数で写真が貼られている。しかしどこにも女性はいない。女の子が生まれなかったわけではないと思われるし、息子たちは母親から生まれたはずなのに・・・ガイドによると、国王には何人もの妻がおり、誰が生んだのかということとは関係ないのだそうだ。

アラブの女性の幸せとはどのようなものなのだろうかと思つた。

みんなが笑顔でいられるために……

みんなが笑顔になる街づくり・地域づくりを

一緒に考えていきませんか？

イキイキ笑顔人

自分らしく
輝いている人見つけた！



ファイルNo.23: 霧 司^{つむし}さん 38歳

名古屋市で生まれ3歳から都内へ。福祉専門学校を卒業後、知的障がい者入所施設などに勤務する。その後、子供から高齢者まであらゆる人の生活を支援するNPO法人「わがいのいえ」の立ち上げから参加。ムーブメント・セラピー/上級インストラクターの資格を持つ。妻、小5・小3の娘2人の4人家族。吉川市在住。

1歳児から祖父母まで一緒に遊ぶ

家族で参加できる”ムーブメントで遊ぼう”の活動を吉川で始めて6年ほどになります。2ヶ月に一回程度、おあしすなどで開催し、やっと歩き始めた1歳児から小学生、その親や祖父母の方も一緒に参加して、いろいろな遊びを楽しめるような2時間程度のプログラムを組んでいます。

座る、歩く、跳ねるといった動作に遊びの要素を盛り込みながら、一人で、親子で、時には別の大人と組んで思いっきり身体を動かしたり、歌を歌いながら手遊びをしたり、”笑いヨガ”でお腹のそこから「アッハッハ」と笑ったり、参加している子どもたちの反応に合わせて、遊びをさまざまに展開させていきます。参加者全員が力を合わせてするパラシュート遊びでは、子どもも大人もみんなが一枚の円形の布に包まれると、大きな歓声があがります。

子どもの心身を発達させる「楽しさ」

私がこのムーブメントのプログラムを学んだのは、仕事で関わる障がいを持つ児童向けのセラピー（療法）の研修でした。子どもの心や身体の発達をうなが

遊びの場”ムーブメント”で 動いて、笑って、楽しんで、 子どもと、親と、地域をつなぎたい！

自分らしく輝いている人の笑顔っていいな…。

“ムーブメントで遊ぼう！”の会場では、子どもも、大人も、誰もが一緒に楽しめる遊びが、次から次に飛び出して、参加者の笑い声があふれていました。

遊びをリードする主催の霧さんに、イキイキ「笑顔」のわけを語ってもらいました。

す為には、脳が楽しいと感じたことをその時に十分にさせることが大前提であると言われていています。例えば、決められた訓練メニュー通りの運動では、出来ないことがあると我慢しながら続けることになり、楽しいはずの運動がストレスになってしまいます。子どもが楽しいと思い始めた遊びを展開することで、運動機能はより高められ、情緒もより豊かに育つ…それがムーブメント・セラピーの考え方です。その後、インストラクターとしての実践を積んで、子どもたちがしたくなる遊び、心身を他の人に安心してゆだねることで成り立つ遊びや遊びの場は、障がいの有無に関わらずどの子の成長にもプラスになると確信して、長女の子育て仲間たちと始めたのが”ムーブメントで遊ぼう”でした。

吉川の大人たちとのつながり

自分の暮らす吉川で顔見知りの大人を増やしたい、地域のつながりを持ちたいという願いもあって始めたボランティア活動でしたが、その願いは少しずつ実

現しています。転居してきて数年の上、仕事が多忙で地域で過ごす時間が少ない私には、吉川の知り合いがいまませんでした。それが、だんだん”ムーブメントで遊ぼう”を支えてくれる大人が増えて、サークル活動からもっと多くの人に参加を呼び掛ける子育てネットワーク事業となってきました。大人がつながっていくと、遊びの場でも、我が子だけでなく他の子どもたちとも思い切り遊んだり、叱るべき時には叱ったりできるようになっていきます。私自身も、二人の娘と妻の家族ごと活動に参加しているうちに、我が子にとっても信頼できる大人が増えていることに感謝しています。

支え合う暮らしの担い手に

高校生の頃、学校の近くにあった障がい者施設に通う人たちへの興味が芽生えました。「この人たちは一体何だろう？」という疑問から福祉専門学校に進み、現在は障がい者やあらゆる人の生活支援をするNPO法人の副理事長を務めています。

障がい者は弱者と呼ばれ何もできない人たちと思われがちですが、決してそうではありません。障がい者から発信できることがいっぱいあることを、仕事の現場からも、私の住む吉川でも、多くの人に伝えていきたいと思っています。そして、障がいを持つ人も、持たない人も、お互いに地域で支え合いながら暮らし

ていければ、こんな素晴らしいことはありません。”ムーブメント”活動で育った子どもや大人の仲間たちが、そんな地域の支え合いの担い手になってくれたらと願っています。



妻・純子さん、長女・小春ちゃん、次女・あおいちゃんと

ムーブメントで遊ぼう!

手遊び「♪ゲー、チョコキ、パーで何作ろう」



両手を支えてもらってジャンプ!



パラシュートの中にみんなで入るよ〜

笑がおの会・市共催／男女共同参画市民企画事業

男女共同参画講座・サロンを

開催しました！

講座

1月22日(火) 午後1時～4時、市役所会議室にて、市民11人と市職員20人が参加し、「再確認、男女共同参画の課題」と題し、瀬山紀子氏(埼玉県事業コーディネーター)の講義とワークショップを実施。ワークショップのテーマのために、「たんぽぽ99」が寸劇を披露するなど、男女共同参画について楽しく学びました。

▼参加者の感想から

初めての試みで楽しかった。
あっという間の3時間でした。

市職員と市民の同席による講座は、画期的だったと思います。

サロン

1月29日(火) 午後1時30分～3時30分、市役所会議室にて、市民等15人が参加し、「これから展開していきたい、地域の男女共同参画」をテーマに意見交換。

越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」を招き、先進地の取組みをご紹介頂いた後、参加者それぞれの想いを語り合いました。

▼参加者の感想から

さまざまな活動をしている市民グループをつなげることで、また新しい活動やエネルギーを生み出している「ほっと越谷」の報告に興味を惹かれました。

募集しています!!

- この情報紙「笑がお」作成に参加して頂ける方を募集しています。
- この情報紙「笑がお」に掲載する「笑顔」の写真も募集中です。

いずれも、下記あてにお気軽にお問い合わせください。

発行 笑がおの会・吉川市

※「笑がおの会」は、吉川市男女共同参画推進市民会議OBの活動から生まれました。

問合せ 吉川市 市民参加推進課 男女共同参画・文化交流担当

〒342-8501 埼玉県吉川市吉川2-1-1

☎048(982)9685 FAX048(981)5682 ✉yoshikawa-mail@city.yoshikawa.saitama.jp

※題字については、檜垣民子さんのご協力をいただきました。